

本紙は、毎号テーマに沿った本やDVDを選んで、あすじや読後感などを紹介しています。今回は巷に溢れる種々雑多な「情報」へのアプローチがテーマです。



編集委員おすすめ 図書



「ほとんどない」ことにされている側から見た社会の話を



小川 たまか 著
合同会社タパブックス(2018/7)
〔分類番号 304.オ〕

昨年の刑法改正は、性犯罪に対する厳罰化が図られたが、依然として性犯罪、虐待等事件は矮小化して伝えられ、多くの被害者は声さえ上げられないでいる。気にはなるが、「私の役目ではないと目をそらし『手を伸ばさなかった話』に胸が疼く。また、性暴力の取材は慎重に構えても、その行動すらも暴力だと認識するほど重い。それでも被害者の声や視点がもう少し知られればと筆者の被害者としての思いも重ねられている。最近の事件に見る風潮や問題を紐解き、「ほとんどない」ことにされている被害者側から見た話に目から大きな鱗がおちる。

(白くま)

女は「政治」に向かないの？



秋山訓子 著 講談社(2018/5)
〔分類番号 女性問題 312.1 ア〕

日本のジェンダー・ギャップ(男女格差)ランキングは、世界144カ国中114位と低迷している。女性国会議員が約1割という現実と、本書のタイトルがその一因なのだろうか・・・

と気になり手に取った。

野田聖子、小池百合子ら女性政治家7人が、なぜ政治を志し、どう壁を打ち破っていったのかを、同性の政治記者が綴った。男社会に身を投じた彼女たちのしなやかで強かな生き方を、興味深く読んだ。

向き不向きはさておき、北欧諸国などで法制化され実施されているクオータ制※が日本にも導入されれば、女性としてのライフイベントを犠牲にすることなく、能力を発揮できるのではないだろうか。(まゆ)

※政治における男女平等を実現するために、議員・閣僚などの一定数を女性に割り当てる制度。

ジェンダーというメガネ やさしい女性学



諸橋 泰樹 著
Ferriss Books(2003/3)
〔分類番号 367.3 ホ〕

「セックス(生物学的性別)がジェンダー(社会・文化的性別)を規定しているのではなく、社会・文化的規範としてのジェンダーの方がこそ身体としてのセックスを規定しているのである」のだと著者は説く。人はジェンダーの形成にあたり、生まれてから、誰に育てられ、どこで育ったか等社会的文化的要因で大きく変わり、家庭、学校、社会と順に繋がっていく。これまでの人生で作られたジェンダーという、合わないメガネをかける必要がないと、人生を気軽にさせてくれる一冊。(はっしー)

情報ライブラリー利用案内

- 利用時間 9:00~19:00
※日曜日は図書整理のため18:00まで
- 休館日 月曜日、祝日、年末年始、図書整理日(月末)
- 貸出数 図書5冊(2週間)
ビデオ・DVD1本(1週間)
郵送での貸出、返却も行っています

★ パッケージ貸出のご案内 ★

利用目的に合わせて図書やDVDをまとめて貸し出すサービスを行っています。(～30冊程度)

- 利用者登録(団体)が必要
- 貸出期間は1ヶ月

男女共同参画の啓発・学習などの際にご活用ください!





新着図書



タイトル	内容	
女の子だって、野球はできる 「好き」を続ける女性たち 長谷川晶一/著 ポプラ社(2018.7)	「野球は男子のスポーツ」という考えが根強い日本。「好き」という気持ちを胸に、さまざまな壁に立ち向かい、道を切り開いてきた女子野球選手たちの秘められた苦労と喜びを綴った一冊。	
ハッピーシニアの参考書 河村 都/著 海竜社(2018.6)	「脱・老後ブルー」のヒント満載。大切なことは、高齢者らしくではなく、自分らしく生きる事。読むだけで、元気が出る本。	
「家事のしすぎ」が日本を滅ぼす 佐光紀子/著 光文社(2017.11)	日本人の「完璧家事」への呪縛は、家族との分業や女性のキャリアを阻み、少子化を加速するという著者。多くの聞き取りや、国際比較などを参照しながら、気楽で苦しくない家事との付き合い方を提案する。	
理系女性のライフプラン あんな生き方・こんな生き方 研究・結婚・子育てみんなどうしてる？ 丸山美帆子 長濱祐美/編 大隅典子 アドバイザー メディカル・サイエンス・インターナショナル(2018.6)	ふつうの理系女性研究者が、普通にぶつかる課題や難問をどう乗り越えたのか、その生の声をまとめた一冊。理系女性に限らず、仕事・子育てに悩む女性を応援する。	
フェミニスト・ファイト・クラブ 職場の「女性差別」サバイバルマニュアル ジェシカ・ベネット 著 岩田佳代子 訳 海と月社(2018.8)	職場で横行する女性差別にどう対抗するか。著者と仲間の経験から話し合ってきた、女性が反撃するときに必要な「巧みな戦術のすべて」をユーモアたっぷりに教えてくれる本。	
総務部長はトランスジェンダー 父として、女として 岡部 鈴/著 文藝春秋(2018.6)	父として、女として、そして自分らしく生きていくトランスジェンダーの告白本。悩みながら選んだ究極の二重生活とは？多様な性の問題を読みやすい文章で綴られた本。	
夢をあきらめなかった13人の女の子の物語 チェルシー・クリントン 作 アレグザンドラ・ポイガー 絵 西田佳子 訳 潮出版社(2018.7)	性差別や人種差別、偏見に負けず、夢をあきらめなかったアメリカの13人の女性を紹介。意志を貫く勇気を教えてくれる一冊。	
DVD	誰もがその人らしくーLGBTー 監督/編集 越坂康史 東映株式会社教育映像部(2017)	LGBTの問題は、他人事ではなく、誰もが自分らしく生きることを考えていく上で、すべての人々に関わりのある問題であることを学ぶ。
	ペコロスの母に会いに行く 監督/森崎 東 製作/日本(2013)	団塊世代のサラリーマン・ゆういちと、認知症が進行していく母との何気ない日常を描く。深刻になりがちな認知症・介護問題を前向きにとらえた、切なくもユーモラスな作品。

◆ホームページでも新着やテーマ別の図書・DVD等を紹介しています◆



あすてらす 映画上映会

入場無料
申込不要

※あすてらすホール天井改修工事のため、1月から上映会をあすてらす研修室で行います。
(日時・内容は都合により変更になる場合があります)。

1月19日(土)「ちづる」 (日本 赤崎正和監督/2011年) 妹のことをどう説明したらよいかわからず、言葉で伝える代わりにカメラを向けることにした一人の大学生。妹・千鶴には、自閉症と知的障害があった。妹と母を1年にわたり撮り続けたことで、彼自身にも変化の兆しが見えてくる。	<今後の予定> 2月16日(土) 僕らは歩く、ただそれだけ(2009年 日本) 3月16日(土) ハルをさがして(2016年 日本)
---	--

映画上映会では、女性の生き方、家族とのかかわり方など、女性に関わる問題をテーマとする映画をお楽しみいただけます。

★★ 編集後記 ★★

今年も新語・流行語大賞の季節となりました。言葉が生まれては消え、情報の動きは速く、戸惑いすら感じますが、今年は特に「言葉の意味」の重さについて考えさせられました。来年が素晴らしい年になりますように。
(すらだ)

■お問い合わせ先■

島根県立男女共同参画センター「あすてらす」情報ライブラリー
〒694-0064 島根県大田市大田町大田イ 236-4
Tel 0854-84-5557 Fax 0854-84-5589
ホームページ <http://www.asuterasu-shimane.or.jp>